

絵本原画展と こやま峰子さん講演会

8月1日から28日まで、剣淵町絵本の館で絵本『北の里から平和の祈り』の原画展が開かれました。あわせて『あいたかつたよ』のパネル展も同時に展示されました。

また21日には作者こやま峰子さんを招いて講演会。アニメーション研究会の佐藤広也さんがこやまさんの話を巧みに引き出します。「今年は戦後77年、広島で終わりにしなければならなかったのに長崎にまで原爆を落としたので、どうしても



長崎を書きたいと思っっていました。ヒバクシャ会館でマリア様を見た時、これを書こうと思いました」と絵本誕生のエピソードを語りました。

日本語と英語による読み聞かせ、佐藤さんによる『あいたかつたよ』のアニメーションもあり、充実の2時間でした。旭川、士幌、札幌からも参加者がありました。なお10月には名寄市立大学の図書館で原画展が開かれます。



絵本の絵を描いた藤本四郎さんから「原画はヒバクシャ会館が持っているのがいい」と寄贈の申し出がありました。詳しくは次号。

被爆二世プラスの会 会員のつどい開かれる



8月28日、ヒバクシャ会館で映画「最後の二重被爆者」の上映と被爆二世プラスの会会員の集いが開かれました。

映画を上映したWHO BOOKSの皆さんとその仲間、二世プラスの会のメンバーら36名が、映画の感想や様々な取り組みの経験を交流し、被爆体験や平和への思いをどう受け止め伝えるか語り合いました。直接被爆したものではないから語れること、語らなければならぬことがある、参加者の様々な意見が活発に飛び交いました。

来館者回復の兆し

ヒバクシャ会館への来館者が少しずつ増えてきています。核兵器廃絶をめざして活動している皆さん、古くから地道に平和や人権の活動を続けている皆さん、学童・小中高の皆さん、広島市の伝承者、資料館の方々。また今年は札幌市内22校で被爆者が語ります。



会館建設の際土地提供を申し出てくれた篠田トシ子さんの甥御さん一家。会館建設コーナーを見ている(7/30)。



映画「二重被爆者」山口彊さんのお孫さん原田小鈴さん。川去裕子さんと二世・三世として話し合っています(7/29)。

さつぽろ平和行動 でも奮闘

7月、8月は被爆者も一緒に平和のための諸行動。右は赤紙配り(8/15)、左は平和行動実行委の対市交渉(8/17)です。

